

新設講座紹介



寄附講座「睡眠医学」について

塩見 利明 大学院医系科学研究科 睡眠医学 寄附講座教授

広島大学と福山通運株式会社との間には、令和3年2月18日に「睡眠医学に関する覚書」が締結され、大学院医系科学研究科において、令和3年4月1日より寄附講座として中国地方初となる睡眠医学講座が開設されました。睡眠医学講座は、睡眠医療に対する専門性の高い医師や技師の育成、職業運転者が睡眠時無呼吸症候群やその他の睡眠障害を伴う場合の乗務適性の評価方法の確立、並びに職業運転者の居眠り運転や漫然運転の予防に向けた安全管理基準の作成等を目的としています。

近年、生活様式の多様化、夜型化により睡眠時間が短縮し、それらの結果として睡眠不足による昼間の眠気から交通事故、毎日の就業または勉学における生産能率の低下等が引き起こされています。そうした中、2019年WHO世界保健総会にて採択された「国際疾病分類第11版（ICD-11）」では、睡眠覚醒障害（sleep-wake disorders）が新たに独立した疾患（第7章）に分類されるという画期的な改訂がありました。我が国はまだICD-10のままですが、2022年以降にICD-11への国内適応が実施されるならば、第7章の睡眠覚醒障害に対する専門性の高い教育指導のために、本講座はその魁になるかも知れません。広島大学病院には睡眠医療センターも設置されましたので、広島大学を中心とした中国地方における睡眠医学および睡眠医療の樹立にも微力ながら貢献したいと願っております。



医療イノベーション共同研究講座について

茶山 一彰 大学院医系科学研究科 医療イノベーション 共同研究講座教授

医療イノベーション共同研究講座は4つの企業、4つの医療法人のサポートを得て開設した共同研究講座です。この講座の目的は、未解決の疾患、特に消化器関係の疾患の新規治療法の開発を行うことです。医療法人では大学病院を受診していない症例の診療を行い、臨床材料や情報の獲得と保存を行い、共同研究機関の協力を得て最新の手法を用いて解析を行います。2021年3月まで在籍した消化器・代謝内科学教室では海外も含め多数の研究機関と共同で多くの研究を行ってきました。医療イノベーション共同研究講座においても、本最新の技術を導入して解析を行うのみならず、他施設との共同研究も含め幅広い研究を行っていきたいと考えています。

